

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市中条1-14
評価実施期間：平成30年1月4日から平成30年2月27日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 060972 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 30年 2月現在）

事業所名： 長野市清野保育園 (施設名)	種別： 保育所	
代表者氏名： 理事長 寺田 裕明 (管理者氏名) 園長 宮沢 けい子	定員（利用人数）： 30名	
設置主体： 長野市 経営主体： 社会福祉法人長野市社会事業協会	開設（指定）年月日： 昭和55年 1月1日	
所在地：〒381-1233 長野県長野市松代町清野90-1		
電話番号：026-278-7275	FAX番号：026-278-7275	
ホームページアドレス： http://www.nagano-shajikyoo.or.jp/nsjk/kiyono_index.html		
職員数	常勤職員： 7名 非常勤職員 6名	
専門職員	園長 1名 保育士 5名 調理員 1名	保育士 5名 調理員 1名
施設・設備 の概要	事務室1 厨房1 保育室3 乳児室1 遊戯室1 園庭 (設備等)	

3 理念・基本方針

保育理念 子どもの健やかな心身の発達を図り、人として生きる力の基礎を培います。 <ul style="list-style-type: none">・児童福祉法に基づき保育に欠ける子どもを保育する事を目的とする。・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。
基本方針 ・安全、安心、一貫性のある安定した保育のもと、子どもが十分自己発揮できるようにします。 ・養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。 ・家庭はもとより、小学校、地域等の関係機関との連携を図り、子育ての悩みや相談に応じ、助言する等信頼関係を築きながら地域の子育て支援の拠点として社会的役割を果たします。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

職員行動目標の「とびきりの笑顔」「あたたかな挨拶」「親切なプラスα」をモットーに子ども達が“えがおキラキラ”“まいにちワクワク”“げんきいっぱい”に毎日楽しく過ごせるように様々な活動・体験することを大切にして、生きる力と心が育つように取り組んでいます。保育園の立地条件を生かし、自然の中で散歩やマラソン、運動遊びを重視し、遊びを通して四季折々の自然に触れ感覚を養う中で、ボディーイメージを育てることに力を入れてきました。職員は、園内外の研修に取り組み、資質向上を目指しています。 また、定員30名の小さな保育園のため異年齢の関わりが自然と培われます。家庭との連携をとり、子育ての悩みや相談に応じています。 地域活動事業として、世代間交流、異年齢交流、一時保育、園解放等を行っています。
--

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○子どもの気づきから発展させた保育の取り組み

子どもたちが、園庭のアリに興味を持ち、アリの巣を見つけたことをきっかけに、虫をテーマにした取り組みを発展させて運動会、公開保育に運動をテーマに4月から取り組んできた。このような保育実践を通して、子どもたちが生命や自然の事象に興味や関心を持ちながら、子どもたちの主体的な活動や子ども相互の関わりが生まれ、年長児がリーダーシップをとり、年少児の面倒を見る等の体験が育まれている。子ども自らが自然や環境に関わり、気づきから発展させた自発的な活動を通し、様々な経験を積めるよう配慮した保育を行っている。また、保育士の専門性の高い知識を得る機会にも繋がっている。

○指導計画と保育実践

指導計画は、一人ひとりの身体状況、子どもと保護者の生活状況、保育実施上のニーズを明らかにした適切なアセスメントの実施により、計画が策定されている。さらに、入所後の子どもの状況を注意深く観察し、健康面、子どもの発達の視点、保護者の意向にも配慮し、子どもの行動や言葉から「気づき」を大切に、個別性の高い指導計画を策定している。また、子どもの気づきから保育を展開し、実施、評価・見直しといった一連のプロセスの根拠を明らかにしており、個別とクラスの指導計画が双方に関連性を持ちつつ、専門性の高い保育が提供されている。目的や根拠を明確にした保育実践により、職員が子ども一人ひとりを理解した上で発達を援助しており、「えがおキラキラ」「まいにちワクワク」「げんきいっぱい」の子どもの姿につながっている。

○職員の資質向上への取り組み

職員一人ひとりの育成は、「職員のねらい」が明示され、達成に向けた個々の研修計画を作成している。その計画にもとづき、研修参加を行っている。さらに、リーダーシップを発揮すべき園長の支援のもと、主任は、法人が運営する他事業所の勤務経験から培った視点を活かし、保育所の主任としての役割、また、一般職員の質の向上に意欲的に関わりを持ち、保育所全体のスキルアップに共に取り組んでいる。研修や様々な経験を通し、事業計画で示す「職員自らの人間性と専門性の向上に努め、豊かな感性と愛情をもって保育にあたる保育士」の育成が行われている。

その結果、子どもたちの毎日は「食事・睡眠・遊び・くつろぎ」の中から、一人ひとりの個性が輝く楽しい園生活により豊かな人間性が育まれている。

◇特に改善する必要があると思う点

○標準的な実施方法の策定

標準的な実施方法について、危機管理のマニュアル、感染症対応、「保育の手引き」など個々のマニュアルなどは策定され、年度当初の職員会やその都度、必要な時期に応じて、職員会（月3-4回）で検討され、周知されている。標準的な実施方法には、基本的な保育・支援に関するものだけでなく、保育実施時の留意点や子ども・保護者のプライバシーへの配慮、設備等の保育所の環境に応じた業務手順も含まれ、保育全般にわたって定められていることが必要である。

周囲の環境、建物の状況や配置、子どもの発達や状況を踏まえた標準的な実施方法を定め、職員の違い等による保育の水準や内容の差異を極力なくし一定の水準、内容を常に実現することを目指すものである。

○園舎の現状

園舎は、築 38 年を経過している。当時は、最先端の設備を有した園舎であったが、年月の経過と共に老朽化が進んでいる。気象条件により戸外からの影響を受けやすい状況にあり、降雪・降雨時は廊下に暴雪カーテンを引いている。職員は、早朝から、園児の転倒等、事故防止のためにこまめな清掃を行っている。子どもたちが少しでも快適に過ごせるように保育士は、部屋の湿温度を保ち、玄関、廊下、トイレ、等の安全確保を行っている。また、部屋から離れてホッとできる場所や、落ち着いて過ごせる居場所を部屋に用意する等創意工夫をしている。水洗トイレでないため、トイレ内の清潔に努め、冬期間は、凍結もあり、手洗いは園庭に面した水道を使用して衛生に努めている。清潔で安全な生活の場として、子どもたちが安心して、くつろぎ、心地よく過ごすことのできる環境となるよう、来年度以降に予定されている耐震工事に合わせた改修工事に期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添 1)

内容評価項目(別添 2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添 3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

平成 30 年 3 月 6 日記載

一人ひとりに寄り添い、子ども達のより良い成長を願い、日々の保育に取り組んできました。

「子ども自らが自然や環境に関わり、気づきから発展させた自発的活動を通し、様々な経験を積めるよう配慮した保育を行っている。」また、「子ども一人ひとりを理解した上で発達を援助していて“えがおキラキラ”“まいにちワクワク”“げんきいっぱい”の子ども姿につながっている。」等保育の取り組みを評価していただき、大変嬉しく、励みとなりました。子どもの力を育むキーパーソンとして、保育者全員で力を合わせてこれからの保育を大切にしていきたいと思えます。

日々行っている「一人ひとりの子どもの発達に合わせた援助」「子どもの気づきから生まれた保育」を標準的な保育マニュアルとして策定することで、職員の違い等による保育水準や内容の差異をなくすことを改善すべき点とし、より良い保育につなげ、今後、地域の方への広報活動に力を入れていきたいと思えます。

また、来年度以降予定されている耐震工事に伴う園舎の改修で、清潔で安心・安全な生活環境を整えていきたいと思えます。

最後に、温かくご指導いただいた評価者の先生方に心より感謝申し上げます。